

第2期三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

日時：令和6年2月28日（水）

10：00～11：15

会場：三朝町役場第4会議室

1 開会

青木地域振興監	それでは皆さんお集まりをいただきましたので、ただいまから第2期三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議を始めさせていただきますと思います。開会にあたりまして、松浦町長がご挨拶を申し上げます。
---------	---

2 町長あいさつ

松浦町長	今日は、大変お忙しいところ第2期三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議を開かせていただきました。今日の議題は主に評価検証等々でございます。限られた時間ではございますけど、どうぞご審議をいただければと思いますし、今回からまた新たに委員さんも代わられた方があります。どうぞよろしくお願いをしたいと思います。
------	--

3 自己紹介 資料1

青木地域振興監	それでは続きまして、この会議については、本町で年に1回の開催で進めておるところでございます。この間、異動等もございまして、委員の交代等もあっております。このため改めて、皆様から自己紹介をお願いしたいと思っております。資料1に名簿をつけておりますが、この順番に、沖田委員さんから順番にお願いいたします。
沖田委員	三朝温泉旅館協同組合の沖田でございます。よろしくお祈いします。
福田委員	おはようございます。三朝町商工会会長の福田でございます。どうぞよろしくお祈いします。
山本委員	三朝町農業委員会の会長をしております山本です。よろしくお祈いいたします。
小川委員	おはようございます。鳥取県中部森林組合の小川でございます。どうぞよろしくお祈いいたします。
野上委員	おはようございます。ハローワーク倉吉の野上と申します。よろしくお祈いいたします。
伊垢離委員	おはようございます。新日本海新聞社で三朝町担当の記者をしています、伊垢離です。よろしくお祈いします。
中嶋委員	日本海ケーブルネットワーク倉吉放送センターの中嶋と申します。よろしくお祈いいたします。
高見委員	竹田地域協議会の高見です。よろしくお祈いします。
西田委員	三朝町教育長の西田でございます。どうぞよろしくお祈いいたします。

小谷代理	鳥取銀行の小谷といいます。よろしくお願ひします。
塩谷委員	三朝郵便局の局長しています、塩谷です。よろしくお願ひいたします。
岩本委員	西日本電信電話株式会社、鳥取支店の公共営業しております岩本と申します。よろしくお願ひします。
青木地域振興監	ありがとうございました。なお、名簿に欠席の印をしておりますけれども、三朝温泉観光協会の足立会長様、並びに山陰合同銀行三朝出張所の生田所長様、倉吉信用金庫三朝出張所の伊澤様がお欠席でございますので、よろしくお願ひをいたしたいと思ひます。それでは始めて参ります。ここからは、松浦町長が議長となりまして議事を進行させていただきます。よろしくお願ひをします。

4 議題

(1) 第2期三朝町まち・ひと・しごと創生総合戦略重要業績評価指標検証等報告

資料2

(2) 三朝町過疎地域持続的発展計画事業実施状況及び達成状況 資料3

(3) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 資料4

(4) 温泉を活用した健康まちづくり事業基本計画骨子(案)

松浦町長	<p>それでは進行させていただきます。限られた時間ですので、皆様方から一言ずつご意見を頂戴したいと思います。議題の1から3については、それぞれの報告を説明した後に、ご意見ご質問のある方に発言をしていただきたいと思います。それから、4の温泉を活用したまちづくり事業を説明した後に、1から4を含めて全般的なことで皆様方からご意見を頂戴したいと思います。そういった形で進行させていただきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。</p> <p>それでは一番の総合戦略重要業績評価指標検証等報告について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>私三朝町役場企画健康課の米田と申します。後ろからになりますが、ご報告をさせていただきます。着座にて失礼いたします。</p> <p>それでは議題の一番第二期三朝町まちひとしごと創生総合戦略重要業績評価指標の検証等報告ということでまいりたいと思ひます。三朝町まちひとしごと創生総合戦略の重要業績評価指標検証等報告ですが、資料の2番をご覧いただきながら聞いていただければというふうに思ひます。初めに資料の確認、紹介を兼ねて、ご説明をさせていただきたいと思ひます。評価指標につきましては、総合戦略の進捗を図るために設定した目標でありまして、その達成状況につきましては、資料2の中で、別表1に抜粋をして記載しております。令和4年度の確定値と令和5年度の見込み値というふうに記載をしております。また、別表の2におきまして、それぞれの具体的な事業概要を紹介しております。それぞれの指標につきましては、コメントはいたしませんけれども、伸びてきているもの、それから若干まだコロナの影響等</p>

があつて、なかなか進んでいないものがございしますが、それらの状況を見ながら、計画に沿って進めているというところで、そういった目線で見ていただけたらなというふうに思います。

資料2のを基にご説明をして参りたいと思います。こちらはまちひとしごと創生に関するトピックということでございます。これにつきましては、もともと本町の地方創生が第11次総合計画に沿う形で、令和2年の3月に、ものでございまして、大きく5つの分野をそれぞれの分野に沿って進めております。この中でも、令和5年度を中心に、このトピックスで分野ごとに起きたようなポイントになるようなものを、役場の各関係課から聞き取りを行いまして取りまとめておりますので、その中でもポイントになるというようなところを、黄色い線を入れております。

こちらについて、少しご紹介をして参りたいと思います。まず初めに、分野別将来像の1「感性と自立心を育むまち」ということございまして、小学校整備事業ですけれども、こちらは令和元年度から取り組みを開始しております。工事の方は順調に進んでおるというふうに聞いておりました、令和6年度夏ごろの工事完成を、目指して進んでおるということございまして、それから、本町の友好交流都市であるフランス共和国ラマルー・レ・バン町、それから、台湾台中市石岡区、こちらの中学生派遣ですけれども、長らくコロナの海外との行き来も、なかなか進んでおりませんで、途絶えていた。その中でも、令和4年におきましては、派遣ができない中でも、国際感覚を養ってもらうべく、講師等の派遣をして交流を進めておりましたが、令和5年度におきましては、コロナの5類移行ということも受けまして、海外との行き来もだんだん緩和されてきたこともございましたので、復活をしております。

それから3つ目ですけれども、町民の健康増進を目的とした「温泉を活用した健康まちづくり事業」を進めるため、町民が温泉について知る、考える機会となるよう、温泉を活用した健康まちづくりシンポジウムを1月に開催しております。

分野別将来像の2「支えあいで繋がるまち」こちらにつきましては、安全安心の地域づくりに向けてということを進めておるものでもありまして、災害ですとか、火災等天災に対するものがございしますが、本町の特徴であります、消防団をですね安定的かつ持続可能な組織として育成していくということを進めておるところでございます。これにつきましては、令和4年度に、消防団のあり方に繋がるアンケート調査を実施しており、団の強化ですとか、運営の改善、処遇改善等のことを、アンケート調査をして参りました。

その結果を踏まえて令和5年度では、消防団員の処遇改善による報酬及び出動報酬の個人支給ということを実現しています。団員数は年々減少しているということですが、組織改編等を踏まえた、これからの団運営のあり方というところに取り組んでいるようです。

それから、みずからの命はみずからが守るという意識の醸成と実際の避難行動がとれるようにということで、こちらも令和4年度はじめて、町内6地域でございますけれども、その地域を運営している地域協議会、こちらの活動と一緒にですね、危機管理局が防災に関する教室などを一緒に取り組むことで、地域住民さんと一緒に防災訓練を行うというような取り組みを令和5年度も実施しております。

分野別将来像「命と健康を育むまち」についてです。これについては、上から2番目ですけ

	<p>ども、子供公園の整備に向けて、子育て世代のニーズアンケート調査の実施、町民ワークショップを実施しております。上からNCNの放送を通じてですねラドン体操というものを放送しており、自宅でですね介護予防体操ができるというような整備を行っています。この効果もあつてか、介護認定者数というのが、実情で減少してきておるといふことでございまして、効果などがあらわれてきているのではないかと担当課のほうで考察をしております。</p> <p>分野別将来像の4「豊かな資源を活かす町」です。天然ラドン熱気浴泉すーは一温泉でございますけれども、令和5年に来館1万人記念を達成しており、記念セレモニーを実施しております。それから三朝町の日本遺産、三徳山三朝温泉を守る会の中では、三徳山の駐車場清掃活動や、参道の修復を目的とした山護運動、それから三佛寺本堂を会場に三徳山フォーラムを初めて開催しております。</p> <p>最後に分野別将来像の5「笑顔で元気に暮らせる町」です。町制70周年の記念に合わせて、町勢要覧のリニューアルを作成しております。</p> <p>それから空き家利活用の促進を図るため、空き家利活用推進協議会と共催の「空き家利活用シンポジウム in 三朝」を開催し、町内の空き家所有者の方はもちろん、空き家に興味を持たれていて、売りたい貸したいといった方同士を結びつけるような取組を進めております。</p> <p>それから、ふるさと納税についてでございますけれども、中間管理事業者というものを導入いたしまして、多様な寄付者のニーズに対応するため、返礼品目の増加。それから新規開拓やサイトの増加などをして、充実を図っております。</p> <p>簡単ではありますが、第2期三朝町まちひとしごとの重要業績評価指標等の検証報告については以上です。</p>
松浦町長	<p>ただいま説明をした検証報告等について、委員の皆さんからご意見ご質問があれば頂戴したいと思っておりますが、いかがでございでしょうか。</p> <p>特にないようですのでまたあれば、後程でもお願いをしたいと思います。</p> <p>次過疎地域持続的発展計画事業実施状況及び達成状況について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料3の過疎地域持続的発展計画について報告をいたします。まず1番の地域の持続的発展のための基本目標の達成状況についてでございます。</p> <p>この過疎計画は令和3年に制定された新たな法律に基づきまして、同年、本町においても過疎地域持続的発展計画を5ヵ年計画で定めているところです。計画の目指すべき目標を、町の人口ビジョンに基づきまして、令和7年に人口規模5,800人を維持と設定しております。現状、令和4年を見ますと5,777人となっております、評価としては厳しいものとなっております。年間の減少幅につきましても令和3年の約1.5倍となっております。</p> <p>次に、この基本目標達成に向けた方針として、出生数の維持、それから転出超過の解消、それから若年者の転入促進として、それぞれの取組の施策としまして、まず、出生数の多い時につきましては例えば出産子育てへのサポート。それから、③④につきましては、移住定住に関わってきますので、住宅等支援補助金や空き家バンク、移住定住のスタッフの増強など、取り組んでおります。こちらについては以上でございます。</p>

松浦町長	それではただいまの過疎地域の実施状況について皆さんの方からご意見ご質問がありますでしょうか。
塩谷委員	お伺いしたいですけど、三朝町を活性化させるっていうのはどうしても人口が増えていかなきゃいけないだろうと思います。特に若い方たちが、三朝町に住んでいただくということが重要なことだろうと思うんですけども、やっぱり表4を見ても若年層が流出をしているということですが、私の自分の話なんですけども、うちの子どもたちは1回、2人とも東京に出て、今は鳥取に帰ってきています。1人は三朝に住んでいます。例えば、若者等定住助成事業、これ丸ついてないですが、もともと三朝に住んでいた子どもたちが1回外に出て行ってもう1回戻ってくるときに、何か助成みたいなのがあるのでしょうか。そこら辺を教えてくださいたいです。
青木地域振興監	私の方からお答えいたします。今言われたステージでの返ってくるという政策としては今のところはやってないというのが実態です。
塩谷委員	<p>私もそうだったんですけども、年取ってから、鳥取、三朝に来るっていう人はそこその人数がいるんですけども、もともと三朝に住んで、地元に戻ってきたい。でも、就職先がなかなかないな。そうは言っても、三朝に戻っておいでよっていう施策があれば返って来やすくなるんじゃないかなと。親としても、こういうことがあるから三朝、鳥取に戻っておいでよっていうことができるんじゃないかなというふうに思います。</p> <p>いろんな施策をされているのは承知をしているんですけども、まず1つはやっぱり、地元で仕事があって、地元に戻ってこられるっていうような施策がないと、なかなか子どもたちが帰ってこないし、人口が増えていかないんじゃないかなというふうに思います。そこも1つ大きなポイントじゃないかなというふうに思います。</p>
松浦町長	<p>ありがとうございます。若い人が定住するための施策を、例えていうなら同居をされない場合の住宅支援だとか、そういうところが考えられるところではあるかと思います。移住定住促進の部分に若干含んでいるところもありますけど、またそういう面を町で検討していきたいというふうに思っております。ただ、ばらまきの支援、助成は、好ましくないというふうに思っておりますので、そういうことはこれまでも提案があたりはしましたけど、町としては取り組んでいないというところでございます。</p> <p>その他ございますでしょうか。なければ次に移らせていただきます。3番の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について報告をさせていただきます。</p>
事務局	資料4をお願いいたします。A3の横長で、計4枚となっております。新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金というのと、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金2つの交付金についてです。コロナの臨時交付金については令和2年度から国が措置しているものですが、もう1つの物価高騰というのは、これまでコロナの臨時交付金のメニューにはあつたんですけども、その物価高騰対策部分を切り離して特化させたような交付金として、国が令和5年度、新たに創設したものになります。これらの交付金を活用しまして、コロナですとか、物価高騰で影響を受けた地域住民、事業者への支援を通じた経済活動地域活力の維持を図っておるところでございます。昨年と同様にこの場をお借りしまして情報共有

	<p>させていただきます。最初の2枚が令和4年度交付金の実績になります。合わせて29の事業を実施し、充当した交付金の合計は約1億7400万円になりました。事業効果については、全国で実施されている典型的な事業を中心に記載をしております。まだ定量的な効果測定までには至っておりませんが、これらの対策をしなかったことによる影響を想像すると、それぞれ一定の効果はあったものと考えられます。</p> <p>次に3枚目と4枚目が令和5年度の事業計画となっております。先ほど説明しましたコロナ交付金と物価高騰対応の交付金で、資料が2つに分かれておりますが、令和5年度については合わせて17の事業を実施しております。規模としては、合計で約1億9700万円程度になります。特に今年度は、低所得者世帯に対する支援の他にあったか燃料券等の住民に対する支援や、温泉誘客キャンペーンといった事業者支援など、主に物価高騰の影響が緩和できるような事業組みをして実施しているところが特徴でございます。こちらについては以上でございます。</p>
松浦町長	<p>ご意見ご質問があれば頂戴したいと思います。</p> <p>それでは4番の温泉を活用した健康まちづくり事業の基本計画の骨子の案の段階ですが、説明をさせていただいて、そのあと皆様方から1から4番全般的に、ご意見等頂戴をしたいと思います。1人4分ぐらいは時間があると思いますので、いつも沖田さんからいくので、今回は岩本さんから回させていただきたいと思いますので、よろしく願います。では4番の項目について説明をさせていただきます。</p>
事務局	<p>温泉を活用した健康まちづくり事業について、進捗報告を兼ねての報告をさせていただきます。資料は、5となります。温泉を活用した健康まちづくり事業につきましては、第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略におきまして、1つの柱として位置付けをしております。健康長寿のまちづくりを全体の目標として、町民の予防を総合的に推進する。そういった仕組みを作るということ掲げて、具体化を図るべく、現在も進めているところでございます。</p> <p>これまで令和4年度は主に関係機関の実務に携わるような方と、ワーキンググループを立ち上げまして、基本構想の策定に向けて参りました。令和5年度からは、そういった関係機関の代表の方と、検討委員会の中で議論を行ってきております。お配りしております骨子の案でございますが、この春、令和6年の3月の末をめどで、策定予定としております。事業の基本計画の骨子案でございますが、現在はこれについての肉付け作業を行っているところです。この骨子の案についてご説明をさせていただきます。温泉を活用した健康まちづくり計画については、3つの方向性をもとに進めようとしておるところでございます。温泉を知ってもらう、温泉と健康づくりを連携させる、入浴等施設を整備するの3つの事業の方向性をもとに、それぞれ個別の取り組みを掲げております。資料は2ページでございます。こちらの方で、三朝温泉を知ってもらうという方向性につきましては、記載をしておるところでございます。三朝温泉の効能、効果、そういったものを町民の皆さんを初めとして、多くの方に知っていただくというところでございます。個別の事業といたしましては、ミュージアム、資料館というようなものや、報告会の実施、そういったものを通じて、知る機会を皆さんに提供して、知るというアクションにつなげていこうとするものでございます。</p>

	<p>次に3ページでございます。温泉と健康づくりを連携させるというところでございますが、今年度、令和5年度におきましては、スポーツ庁の補助金を活用させていただきまして、温泉旅館で、フィットネスの事業、また、三朝温泉病院で、温泉運動浴をそれぞれ実施したところでございます。いわば試験的な取り組みではございましたけれども、こういった取り組みを継続、或いは展開を図っていきまして、温泉と健康づくりを連携させる、そういった取組の確立を目指して参りたいと考えております。</p> <p>最後に5ページ目でございます。入浴等施設を整備するということで、新しい日帰り入浴等施設の整備に向けて、その実現に向けて、コンセプトだとか、そういったものを記載しておるものでございます。それぞれ個別の事業について、説明させていただくことも望ましいところですが、今回の会議では、まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づきまして、そこで書いていた事業がこういう状況にあると、進捗はこうでございますということを報告させていただくとともに、計画策定に向けているというところの説明とさせていただきたいと思っております。以上で説明を終わります。</p>
松浦町長	<p>意見交換に入らせていただきたいと思います。それでは岩本委員さんの方からお願いをしたいと思います。</p>
岩本委員	<p>ICTという視点からコメントさせていただきます。三朝町においてはやはり光ケーブルですね、町内に張り巡らされていて、ICTを活用といった形での取組を進められて、弊社としても教育委員会事業等に関わらせていただいております。ありがとうございます。温泉を活用した健康まちづくりといったところに関しては、三朝温泉、こういったシンボリックなコンテンツをどんどん町の中でまず知っていただくアピールするっていったところもあるかと思っておりますし、私どもといたしましては通信を活用して、町外に向けても観光事業としてPRをされてはどうかというところの中でICT活用して、進めていただくそういったお手伝いもさせていただければというふうに考えております。健康の分野におきましては、温泉を活用してといったところもあるかと思っておりますし、鳥取県の中では、今年ねんりんピックが開催されるというところの中で三朝町においてもスポーツが開催されるといったところもアピールされて事業の方を進められていくところがあるのではないかとこのように考えております。</p> <p>弊社としましては、スポーツ事業においては今eスポーツといったところに注力させていただいております。高齢者の方々に推進させていただいております。高齢者の方ですと、認知症、そういったところの予防対策が考えられます。あと、移住定住のところに関しましては、若年層、そういった方々に三朝町に、移住定住していただくというところの中では、仕事、今テレワークという形で、どこの環境においても仕事ができる環境が整いつつあります。もうすでに整っております。テレワーク環境を推奨されて、三朝町の中で仕事をしながら、或いは温泉に浸かりながら、仕事を進めていく、そういった若年層の方々がどんどん増えていったらいいなというふうに考えています。</p> <p>先ほどコロナの交付金を活用といったところが、ご紹介であったと思うんですけども、その他にも国のデジタル田園都市交付金制度もございまして、こういった補助金を活用して各自自治体、ICTを導入されているところがございます。そういった事例が、弊社にもたくさ</p>

	<p>ん溜まってきておりますので、こういった補助金を活用した事業の整備というところをまた今後、三朝町に対してご提案させていただければというふうに考えております。</p>
塩谷委員	<p>先ほどもお話したのですが、さっき何で子どもの話をしたかという、実は、私の子ども世代、結構三朝に戻ってきてくれているんです。県外に出て、三朝や鳥取中部に戻ってきてくれているなど。多分三朝町では、1回中学・高校卒業したら、子どもたちがどうしてるかっていうのを集計してないのかなというふうに思うんです。その辺をちょっと調べてもらって、帰ってきたいとか帰ってきましたという子もいるし、帰ってきたいけど仕事がないから帰ってこれないんだっていう子どもたちもいると思います。仕事が先なのか人が先ということもありますが、人が帰ってきたら仕事がそれだけの需要ができてくるのかなっていうふうにも思いますし、そういう子たちをどんどん帰ってきてねってできるまちにしてもらえれば非常に活性化になるんじゃないかなというふうにも思います。</p> <p>教育でもさっきもありましたけども、三朝町を誇れる、そういう子どもたちを育てたいんだっていうことですけども、実際誇れるものがいっぱいあるんですよ。温泉もそうですし、三徳山もありますし、お米も本当に美味しかったりね、食べ物も美味しい。ぜひ思い切ったことをしていただきたいなと、夢があるとか将来的に三朝ってこういうふうに目指してるんだなというふうなことを子どもたちも思えば、いずれ帰ってきたいなというふうに思うかもしれません。ぜひそういうふうな計画を進めていただければなと思います。</p>
小谷代理	<p>銀行の観点からお話させていただきますと、例えば住むところってなると、住宅を新しく建てたり、アパートに住んだりってなるんですが、やっぱり周辺の倉吉や湯梨浜とかと比べると、住宅の着工件数っていうのは差がある。肌感覚ではありますが、そういう感覚でおります。やっぱり三朝町に住みたいって思われる若い方がいらっしゃったとしても、なかなかアパートもないし、家を建てるお金もないしということを踏まえた上で、そういった定住の支援があればいいのかなと思います。</p>
西田委員	<p>まず三朝町の教育の紹介ですが、工事の計画では令和6年8月31日に完了して、引き渡しが行われるという運びで、この工事については長い目で見ると工事の遅れとか早くできたりとかいうことはありますけど、概ね予定通り進んでおります。引っ越しですけど、音楽祭とか、学校の行事があるものですから、10月頃に秋休みという、特別な休みを作らせていただいてそこで引っ越しをさせていただいて、6年生にも、その新しい校舎に入っていく。それから、中学生たちにも工事で大変迷惑をかけておまして、この子たちにも、どうい学校ができていくかっていうのを内覧会のような格好で、見てもらう機会を考えています。</p> <p>また、県の土木の関係で、ドローンを飛ばしていただいて、学校がどのように建てられてきているかその状況も、ホームページの方で挙げさせていただいて、1つ三朝町の歴史の中で大きな出来事を記録をしっかりとっているという、大変ありがたいことだと思っております。</p> <p>またコロナで学校も、休校とかいろいろあったわけですけど、その中でGIGAスクール構想ということで、国が進めていただいたおかげで、オンライン交流というのがとても活発になっております。中学校では、台湾の石岡中学校とオンラインで交流をし、フランスの中高</p>

等学校の日本語クラブっていうのがあるんですけど、そこの交流があったり、また小学校では、古くから城陽市と交流しておりますけど、その1つの小学校とオンライン交流、昨日給食委員会の発表を給食時間に、城陽と三朝でそれぞれで発表しました。或いは、多賀町との交流で、多賀町には2つの小学校があるわけですけど、そことオンラインで結んで3小学校間でそれぞれ町の紹介をしたりして、小学校3年生の学習に合った、そういう教育活動に活用させていただいています。

これがオンラインで出会った子が今度は直接、お会いすることによってさらに交流が深まっていく。先ほど紹介がありましたけど、今年度、久々に台湾・フランスに行きました。その中で交流が深まり、ある家庭は、台湾に親子でお世話になった家に行ったっていう話を聞きました。このような、私人間間といいますか、私同士の交流が芽生えているということもありがたいなと思っております。

それから、ふるさとに帰ってきて欲しい。ふるさとキャリアパスポートっていうことで、県の教育委員会が進めていらっしゃるんですけど、本町においても、日本遺産を中心としたふるさとキャリアプログラムというのを組んでおります。小学校1年生から中学校3年まで、お料理について学習活動をするということでやっておりましてこの成果が、三朝の特徴なり、資源を使ったふるさと企業と業を起こすような、そんな運びになったらなと思ったりしております。

先ほど、言い忘れましたが小学校施設においては、内装において町産材を中心に、木質の材料を使って、進めておるわけです。ここにおいては、森林組合さんに情報をいただいたり、お力添えをいただいて、できるだけ町産材を使った、三朝らしい校舎に仕上げているところなんです。

それから学校の苦しさですけど、令和の日本型学校教育ということで、いろんなことが、業務改善とか進んでいるわけですけど、やっぱり人の問題があつてですね、三朝町においても、小学校で0.5人とか、中学校で1人、教員が不足している。そんな中で、学校教育を進めております。特に、新たな手法として、コミュニティスクールという考え方があります。地域の皆さんと一緒にあって、そこには子どもたちも参加して、よりよい学習環境をみんなで作っていかうっていう取り組みだと私は理解しております。そんな活動が進んでいくように、このまち・ひと・しごとの中で地域をよくするという事はどういうことか、それを子どもたちにも考える機会とさせていただいたらなと思っております。

最後に、NCNさんにお世話になって、中学校の学習の成果として人権劇をドラマ化していただいております。10時15分と13時30分と、19時この1日3回、子どもたちが、人権に関するドラマを面白おかしく作ってくれています。私も見ましたけど、何回か見ましたけど大変面白いドラマになっている。さっきの台湾・フランスも、そこに訪れたときに、映像を撮影して、その映像の中には、ラマルー・レ・バンの町長宅が出てくる。そういう場面もあつたりして、とても豊かな発想で仕上げられています。そんな、すばらしさをどれだけ私たちが伝えるかっていうことは、移住定住に繋がるんじゃないかなっていうことを思っております。

<p>高見委員</p>	<p>塩谷委員さんの話にもありましたが、要するにUターンとか、移住も含めてですが、人をどうして引き入れていくかっていうふうなことも、これからの施策としては大事な要素かなっていうふうに思います。最近目立ってきたのが、空き家の問題です。空き家は、そもそも所有者は不在になるから、空き家というふうな形になると思うんですが、そうすると放置しておくっていうのが、常套手段になってきます。その中で周辺に迷惑をかける家屋は、処分対象というふうなことで町の方も、それに対して幾分か、助成はしますよ、処分してくださいっていうふうな形が、制度としてでき上がってきております。こういうふうな形でもって、どんどんと奥部を中心に、空き家が増えていく、それをどういうふうに扱うかっていうことが、今後、大きな課題になってくるのかなっていうふうにとらえております。空き家を活用するっていう、手だてをもう少し総合的にというか、単発の問題としてじゃなしに、移住定住も含めて、連携させた総合施策っていうふうなものが必要ではないかなっていうふうに思います。窓口もいろいろと現在分かれておまして、危機管理で処分するっていう、その危ない家屋を処分するっていう対応、それから、観光分野だったと思うんですが、そちらの方では、空き家活用っていうふうなことでありますけど、やっぱり処分も活用も一体的に空き家っていうとらえ方で考えていかないといけないかなっていうふうに1つ思います。</p> <p>それと、空き家になる前に、その家の処分っていうのを事前に考えてもらうっていうふうな取り組みが、所有者がいなくなって、連絡がなかなか取りにくいところで、活用というのも非常に進みにくいっていうふうに思いますので、その辺をもう少し活用するという前向きなとらえ方で、所有者がいる間に、方向性をある程度出させていただくっていうふうな、そういうふうな指導というか、取組っていうのも大事なかっていうふうに思います。民間の家屋だけじゃなしに、公共の小学校であるとか保育園であるとか、人口がどんどん少なくなってくると必要だった施設が不要になってくるっていうことが結構あると思います。それをどう活用するか、どう処分していくかっていう方向性もお金の問題が絡みますので、なかなか難しい問題だとは思いますが、その辺もこれからとらえていく必要があるのかなっていうふうな思いがしております。</p>
<p>中嶋委員</p>	<p>三朝町で光の回線が整備されています。整備が終わってせつかくある回線をこれからはどう利用していくのか、住民の皆さんに対する安心安全であるとか、或いは利便性につなげる、そういったソリューション、弊社の方でも提案していけたらなというふうに考えております。</p> <p>先ほど教育長から、中学生の映像の話がありました。三朝町で中学校で映像制作を授業の中に取り入れられていて、県内でも非常に進んでいると思っております。実際今年、県内の中学校で、そういったことを始めたいんだけど弊社に相談がありまして、今年の8月まで倉吉にいた職員が三朝町の取材をさせていただいた経験をそのままお話しさせていただいたりということがありまして、これをどんどん進めていただけたらなというふうに考えております。映像機器等々についても、かなりデジタル化でされてハードル、値段も下がっていますし、ハードルも下がっていますので、中学生、小学生、こちらの方で町内の情報をどんどん発信していただけたらなというふうに思っております。そのお手伝いについては弊社でも協力できることはどんどんさせていただけたらというふうに考えております。</p>

	<p>それから塩谷委員さんからありました地元に戻ってくるお子さんへの補助というところなんですけど、実は15年ぐらい前にJAの会議、私取材させていただいたときに、若手の農業者の方から意見を吸い上げるという会議だったんですけど、新しく就農される方に対しては手厚い補助があるんだけど、既存で頑張ってる若い就農者には、補助が少ないんだというところで意見が出ていました。それに共通するところがあるのかなというふうに思っております。いろんな教育として三朝町に対する地元に対する愛着っていうのがあると思います。地元に戻ってこられる環境を整える必要があるのかなというふうに私も考えました。</p> <p>宣伝になるんですけども資料にある介護認定者数が減少してきているっていうところの中のラドン体操の話になるんですけど、実はこれ5年以上、10時と15時に、放送しているんですけども、当初は公民館で見ていたよって話を聞いてて、見られているんだという話は思っていたんですけど、資料事前に送っていただいたときに、ここに成果として上がって、これ本当かいなと個人的には思ったんですけど、実は先日公民館から電話いただきまして、テレビが映らないと。10時からラドン体操みんなで集まってやるんだけど、見れないから早く修理してくれという電話をいただいて、テレビで皆さん集まってやっていただいているんだなということで、改めて実感しました。こういった何気ないことも長く続けていくことも大事なのかなというふうなことを実感したということでちょっと紹介させていただきました。</p>
伊垢離委員	<p>新聞記者としての個人的な願望もちょっと含むんですけど、移住定住促進だったりとか観光客をふやすにしても一番重要なのは、町外に向けたPRがしっかりできてるかどうかなと思うんですけど、そうやって外に情報を出そうとするなら町報とか町のホームページだけだと足りないと思うんですけど、個人的には行政からの情報提供っていうのが、他の町に比べて少ないと思います。ふるさと納税の話をする、ふるさと納税の件数を増やそうと思ったら、町民の人っていうよりは町外の人へ情報を出すべきだと思うんですけど、三朝町さんは山陰初のふるさと納税の自販機設置されたりだとか、せっかく面白い取組をされてるのに、その時も設置記念のセレモニーをされたぐらいで、そのあとの継続した広報っていうのがあんまり目につかない。別表2の最後のページにあるように、ふるさと納税の件数自体は年々増えてらっしゃると思うんですけど、先日担当者の方にお話を聞いたときに、この増えている件数の中で、自販機がどれだけ貢献してるかって言ったら、あんまり自販機の影響はないっていうお話をされていました。要するに三朝町がやっておられる取り組み自体は、全体的にどれも面白いなって、普段から思っているんで、その事業をやって終わりではなくて、継続した外へ向けた広報されるといいかなと思いました。</p>
野上委員	<p>まず、いろいろな事業をするにあたって、まず人口の減少問題というのが、最重要の課題かなというふうに思っております。若者定住とか、移住定住とか、子育て環境の整備というのを、重点的にやっていただきたいなというふうに思っております。その中で、やはり限られた予算で効果を上げていかなければならないと思いますので、他の市町村のいわゆる成果が出た取り組みというの徹底的に模倣して効果を上げていくというのがいいのかなというふうに思います。それで1つ、移住定住で記事で見たとと思うんですけども、まず、移住定住するときには、住宅というのが、最初に必要になってきます。空き家を公的な予算でリフォーム</p>

	<p>ーム、リノベーションして、移住定住した人に貸与する。その町に30年ぐらい住むと家をあげるといような取組が市町村でやったというのを聞いたことがあるのでそういった取組も、すごくいいのかなというふうに思います。</p> <p>それから、私の個人的な意見ということで聞いていただけたらと思うんですけども、2026年度倉吉市で大きな雇用創出というのが生まれます。そうすると、そこに人が集まってくるので、まずは、三朝町の人口減少を食い止めるということでまず住んでもらうということを中心に考えてもらって、三朝町に住んでもらって、働くところは、隣の市に行くとかっていうことでもありではないのかなというふうに思っておりますので、連携していってもらって、人口減少を食い止めるような取組みというのをしていただけたらいいのかなというふうに思っております。これはあくまでも個人的な意見でございます。</p>
小川委員	<p>まず、まち・ひと・しごと創生推進会議の基本が温泉を活用した健康なまちづくりということの中で、我々の立場で申し上げますと、森林浴と温泉浴を何とかマッチしたようなことを三朝町独自の何か取組みというものができないかなと思います。数年前から林野庁で、森林サービス事業ということで数億円ぐらいの事業ですけども、何とか公益的な機能、保健休養林というような事業が今できております。そういったものを三朝町の中で場所があれば、それと温泉浴と一緒にした取組をして、関係人口も含めて、観光客のことも含めて、集客に対することができたかなというふうに思っております。ただ、我々の組合としてマンパワーがなかなか足りないもので、なかなか森林浴サービス事業に向かうということがなかなか現状できないということもありまして今後町と一緒に取組ができればなと思っております。</p> <p>自分の立場で一番今大切なことだと思っておりますのは、西田委員さん言われたわけですけど、今回、学校に地域材をかなり使っていただいたということで、これの元は、やはり木育というものが非常に今後大切になるのではないかとということで、国の文科省も1回、小学校の教科書の中に、森林林業というのは消えてしまっております。それを改めて載せて、やはり木育というものを今後、教育の中に入れ込んで、子どもの心の醸成といいますか。そういったものをしていく必要があるということ今検討されております。その木育をすることによって、結果として、やはり地域を、地元をやはり愛する気持ちというものが、さらに子どもの頃からできていって、幾ら、県外に大学等で出て行かれたとしても、塩谷委員さん言われたように、また帰ってきて、地元はいいねというようになっていくのではないかと思います。いっぺんにはできませんけど、そういうことを今後できればなということで我々も三朝町のみならず1市4町の中で、木工教室を開いたり、森林に行って森林作業をしたり、この木育活動というものに、できる限り組合の事業の1丁目1番地的な考えの中で進めておるところでございます。</p> <p>今申し上げたことに繋がりますけど、当組合もすべての企業そうですが、その担い手不足といいますか、特に森林の整備というものがなかなか前に進まないというようなことがございます。先ほど、これも塩谷委員さん触れられましたけど、町でそういった担い手といいますか、就労支援というようなことが何かできることがありましたら、またそういったことによって、この三朝町に定住して、地域の森林保全はもとより、かなりこの町のPR等も含め</p>

	<p>て活性化に値することになるのではないかなと思っておりますので、今後そういったことができることがございましたら、お願いをできればなと思っております。</p>
<p>山本委員</p>	<p>農業委員会の立場からですが、1農家としても実際やっていますが、町内で今ほとんどが水田、お米を作っている農家がほとんど少ない。地域性もあって、広大な農地があるわけじゃない、山間地が多いというようなことで、どうしても大型農家が育ちにくい部分があると。そうするとどうしても集約的小さな零細しかできないという農家の集まりになってまして。昨日もそういう担い手の方を集めた会議をやったんですが、やっぱり年々耕作不能地が増えるという状態に、手をつけられないと、何とかしてやろうという話が出てこない、もうそれがどんどん増えています。ましてや、昨年の水害の影響で、農地が犠牲になって水がこないで今年、お米をつくれないうようなこともあるんですが、言えば、農地が被害になって、宅地が守られたっていう人もあるんですよ。要するに農業のためだけじゃなくて地域を守る部分でもあるということもありますし、このままではその部分が山に変えるだけみたいな話になりそう。これすごい危惧しているということで1つ、私が今考えて、農家の人に勧めているのが、お米の品質を上げるというのは、どこでも考えているんですけど、特別栽培米というものをグループで作って、ここ七、八年やっています。お米屋さんを買っていただいてやっとなりが出てきて、旅館の方でも使っていたんですが、5件ですかね、今使ってますが、どんどん引き合いが指名買いといいますかね、それが出てきますということと、お客さんの数に応じても増えていますが、一番顕著なのが、お土産に欲しいと、リピート買いというのが増えていきます。農家の人がそこをわかってないんですよ。広報不足っていうのはあるけど、その辺も含めて、自分達で作っているお米が喜ばれているということをつかってもらって、如何せんそれが単価に結びついていないという現状ですので、ここにJAさんいないですけど、JAさんとやると、販売価格はほぼ一緒なんですけど、原材料にしてもそれからライスセンター使ったりする使用料にしても年々上がっています。当然儲かるわけじゃないですよ。ですからその部分は、自信を持って訴求できる品物を作って、大きな面積じゃないんですから、小さい面積ですけど、良いものを作ると、さっきから出ていますように、いろんなところで自信のあるもののやりとりがやっていければ、農家の人も作る意欲が沸く。そうすれば、農家の人は自分の息子に跡を継いでどうかとか、拡大したらどうかとかいえる立場にならないと、まず増えないと思っておりますので、その夢のある部分をふやしていきたいなと思っております。そういう形ができないかということで、模索していますので、町もその辺の応援をよろしくお願ひしたいと思っております。</p>
<p>福田委員</p>	<p>商工会の立場での回答ですけども個人的な意見も言いながらになりますが、皆さんから出てるように、やはり人口をどうするかというのが一番大きなポイントだというふうに思っています。以前にも言いましたが、大瀬の上の方で区画整理をした。あそこが今一番、人が増えているところなんですよ。宅地が増えて、田んぼも畑も綺麗になって公園もつくって、町道も綺麗になった。こういう施策を前回は任意組合でやりましたが、町でやっていただいてですね。今度小学校も新しくなります。保育園も待機ゼロという状況の中で、若い方にその宅地を販売することによって、移住者をふやしていく。そこに帰ってこられる方もあってもいいというふうに思っています。</p>

	<p>それから商工会の立場で言いますと、やはり従業員不足というのは事実であります。ところが、コロナで事業閉鎖したところは、三朝の場合はありません。逆にですね、三朝で事業をしたっていう方が今たくさん増えてきます。三朝で事業をしたいという人が本当に増えてきている中で、町の創業支援をいただいて商工会がそれをお手伝いして、本当に何件も増えていってる。町にはやはり、もう少し力をいただいた部分をさらに考えていただいたらというふうに思っていますので、事業者が増えるということは町が元気になるということですので、その立場でも町と一緒にやっていきたいなというふうに思っています。</p>
<p>沖田委員</p>	<p>今、福田委員さんおっしゃったように、この三朝地区の中でも、なんか目立って、新しく事業される方が増えてきたように思っています。その中で私も温泉ですので、温泉街の中でヨーグルトの方であったり、居酒屋的なことであったりっていうことも増えてるんですけど、温泉街の中で、建物はあるんですけど、なかなか使いにくいとか雨漏りであったり、老朽化した建物が多くてっていうところで、そこで事業が広がっていかないという部分があります。オーナーさんがあることなので難しいと思うんですけど、少し修繕の支援であったり、創業支援だけではなくてそういったところも含めていくと、もう少し入ってこられる方も入ってきやすいのかなと思っています。コロナの時に、必要があって、修学旅行が町内になったということがありました。迎える側としては、かわいそうだなと思ったんですけど、実際来る学生たちはすごい喜んでくれて、大人が思っている以上に、三朝に愛着があるって感じて、戻って来やすい施策は必要なんじゃないかな、Iターンだけではなくてもともと三朝を好きな子たちなので、そういったところをもう少し支援できる制度があればと思います。</p> <p>それから先ほど伊垢離委員さんも仰ってましたが、圧倒的に三朝町って発信力が失礼ながら弱いと思っていまして、周りに鳥取市もそうですし、隣の湯梨浜もそうだし、琴浦であったり、最近話題になっているところ、移住定住の部分でっていうところが多いんですけど、やってることはそんなに変わらないのかもしれないですけど、発信のところはもう少し頑張らないと、この中部、鳥取に帰ってくる子たちであったりIターンの人たちであったりの中で三朝町がなかなか選ばれない状況。町長も職員のこと仰ってましたけど、選ばれない状況が生まれてるんじゃないかなというところがあるので、これは役場の職員だけの問題だけじゃなくて、民間も含めて、いろんな部分で協力しながらやっていかないといけないのかなとは思っています。</p>
<p>松浦町長</p>	<p>大変貴重な意見を頂戴をいたしまして、指摘もいただいて感謝をしております。特に情報発信とデジタルについては、本当に私も遅れているというふうに思っております。人材が育ってないとか役場のシステムが育ってないということだと思います。一人一人はそういった能力があると思うんですけど、それが業務の部分と結びついてきてないというのが、自分なりに思っているところですし、体制が中途半端なところもありますので、4月時点でこの部分については、てこ入れをしていきたいと思っております。</p> <p>今日の貴重な意見をまとめて月初の課長会にそれぞれ示したいと思っておりますし、予算はこれから議会で審議をしていただきますけど、その組み立てをしている事業の中で、取り入れていけることも多々ございましたので、本日の会議のご意見を生かしていきたいというふうに</p>

	思っております。
岸田コンシェルジュ	質問なんですけども、健康まちづくり事業基本計画の中の温泉ミュージアムの開設ですけれども、これはハコモノですか。
青木地域振興監	いろいろでございます。デジタルの部分もでございます。箱というところまではないのかもしれないが入浴施設とあわせてというようなことも考えておるところでございますので、特にデジタルという部分で言うと、岡山大学さんの研究等もありますので、そういったこともうまく結びついて、大学の研究も糧になるような発信も含めてやりたいというふうに思っております。

5 閉会

松浦町長	予定しておりました時間になりましたので、今日の会議を閉じさせていただきたいというふうに思います。それではまた来年度も地方創生の会議続けて参りますが、また新しい事業も展開をして参ります。どうぞ皆さん方のご意見を頂戴しながら、1つ1つ成長していきたいと思っております。今日はどうもありがとうございました。
青木地域振興監	お手元に意見書等の様式もつけておりますので、またお気づきの点等がございましたら、お知らせをいただければ、前に向けて進めて参ります。どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。

11 : 15 閉会